

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	岐 阜 県
-------	-------

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	瑞浪市立瑞陵中学校			フロンティアチャ-	後藤 正英	
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	21
生徒数	112	112	88	2	314	

研究の概要

1. 研究主題

<p>個が育つ授業 ～一人一人に基礎・基本が身に付き、個の伸びを支える教科指導～</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>実施学年・・・全学年 実施教科 ・数学，英語・・・少人数指導 ・理科・・・TT指導 ・国語，社会，音楽，技術家庭，保健体育・・・一斉指導</p>

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 個が育つ授業 ～一人一人に基礎・基本が身に付き、個の伸びを支える教科指導～ 研究の見通し(仮説) 教科の基礎・基本を明らかにし、教材、指導方法、評価の方法の3つの視点から、個に応じた指導を工夫すれば、教科の基礎・基本を身に付け、さらに興味・関心に応じて自ら学ぶ力を身に付けた生徒が育つであろう。 研究の内容・方法 1. 個に応じた指導のための教材開発 教科の基礎・基本を確実に身に付けさせる教材の工夫 個のよさを生かし、自ら学ぶ力を伸ばすための教材の工夫 2. 個に応じた指導方法の工夫改善 個に応じた指導のための指導形態の工夫 個に応じた指導のための指導過程の工夫 3. 個が伸びを実感でき、次の学習に生かせる評価の工夫 授業評価を生かした授業の改善 個が伸びを実感できる評価(生徒の自己評価・相互評価、教師の評価) 方法の工夫</p>
--------	---

<p>テーマ 個が育つ授業 ～一人一人に基礎・基本が身に付き、個の伸びを支える教科指導～ 研究の見通し(仮説) 教科の基礎・基本を明らかにし、教材、指導方法、評価の方法の3つの視点から、個に応じた指導を工夫すれば、教科の基礎・基本を身に付け、</p>
--

(発展)	町までは時速4kmで歩いたら、3時間24分かかった。A C間の道のりを求めなさい。
------	---

研究内容2について

- ・「習熟度」や「興味・関心」を通してとらえた生徒の実態に応じて、TT指導体制や少人数指導体制で指導することによって、生徒一人一人に「基礎・基本」を身に付けることができた。
- ・単元や単位時間に個の「習熟度」や「興味・関心」に応じた指導過程を工夫し、授業を構成したことで、主体的に学習する生徒の姿が増えてきた。

数学科

習熟度別少人数集団編成の手順

レディネステスト実施
生徒のコース希望調査
教師による助言・指導，調整
コースの決定

3つの指導体制の位置付けと

コース設定指導体制

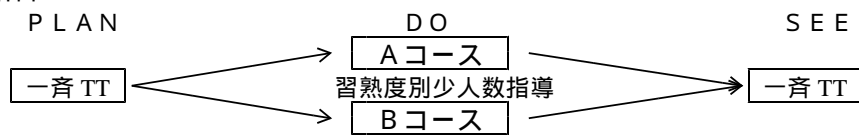
本時のねらい	指導体制
数学的な知識・理解の定着 数学的な見方や考え方の広がり	一斉指導 (TT補助型)
数学的な表現・処理の定着 数学的な見方や考え方の理解	少人数指導 (習熟度別)
数学的な見方や考え方の深まり 数学的な関心・意欲・態度	少人数指導 (課題別)

コース設定

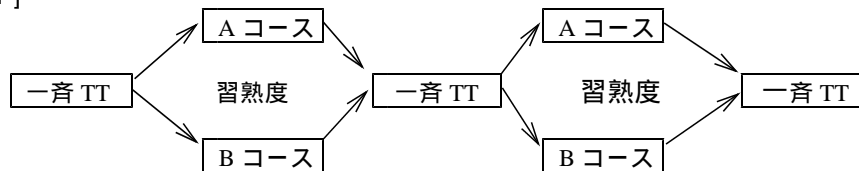
コース	人数	コース内容
かめコース (基礎)	クラスの 3分の1程度	基本的な数学的な見方や考え方，基礎的な表現・処理の技能を補いながら，本時の課題解決に取り組む。
うさぎコース (発展)	クラスの 3分の2程度	身に付けている数学的な見方や考え方，基礎的な表現・処理の技能を自ら利用し，本時の課題解決に取り組む。

英語科

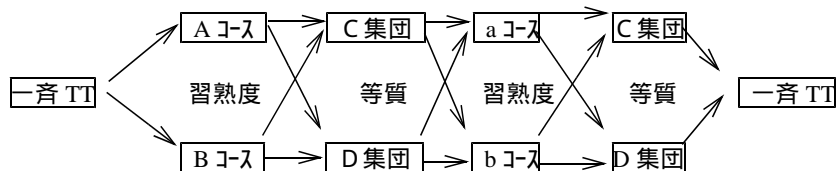
[基本形] PLAN



[パターン1]



[パターン2]



理科

理科のTT指導形態の3つの型

協力型：T1とT2が協力して指導・援助する。
分担型：T1とT2が役割分担して指導・援助する。
補助型：T1とT2のどちらかが補助的な役割で指導・援助する。

単元指導計画への位置付け

単位時間内での3つの型の使い分け

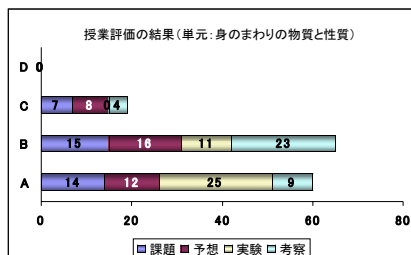
研究内容3について

- ・学習過程の各場面における授業評価を位置付け、実践した結果から、意図的に指導・援助を行うことで成果をあげた。また、教材を授業評価させたことで、その内容や与え方をより有効に改善することができた。

理科 ... 「4種類の白い粉末を物質の性質により区別する授業」

評価項目

- 問(1)課題はわかりやすかったか
 (2)予想は立てられたか。
 (3)実験は進んでできたか。
 (4)考察は書けたか。
 (A...よくできる, B...できるなど,
 C...あまりできない, D...できない)



評価の結果

C評価をしている生徒に対して、TTの分担型で意図的に指導・援助する。

国語科 ... 1年「読むこと」
 単元末の授業評価(授業評価2)

問: プリントに書かれていた「読み取りの視点」は参考になりましたか。

答: はい... 83%
 普通... 27%
 いいえ... 0%
 ・どう使って良いかわからない時があった。
 ・自分で考えたい時もあるから、読み取りに慣れてきたらなくてもよい。

【改善案】

- ・「視点」を生かしきれない生徒のために、具体例を示す。
- ・個の実態に応じるために、「視点」をヒントカードとして提示し、使うかどうかを選択できるようにする。
- ・「視点のついてないもの」「視点のついたもの」「視点とその具体例がついたもの」など個の習熟の程度に応じた複数の学習プリントを作成する。

2. 今後の課題

研究内容1について

- ・生徒一人一人の習熟度や興味・関心をさらに詳しく把握し、その結果を生かすことのできる教材開発

研究内容2について

- ・生徒一人一人の多様な見方、考え方、興味・関心、習熟度の程度にさらに応じた指導形態の編成の仕方や指導形態の生かし方

研究内容3について

- ・さらに個を伸ばす授業改善のための、自己評価の項目と方法、単元における「授業評価1」の位置の検討

学力把握のための学校としての取組

<p>観点別テストの実施 調査目的：生徒一人一人に各観点別の力がどのくらい定着しているのかを確認するとともに、今後指導を行う上での参考とする。 実施内容：国語・社会・数学・理科・英語の5教科 時 期：平成15年9月(1,2年),平成16年1月(2年)</p>
--

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<p>研究会、説明会等の開催実績及び開催予定(日時、場所、対象、会の目的等) 学力向上フロンティアスクール公表会 日 時：平成16年1月20日 12時40分～ 場 所：瑞浪市立瑞陵中学校 対 象：東濃地区管内中学校 会の目的：学力向上フロンティア事業の指定校の研究成果を、管内中学校に広める。</p> <p>研究成果普及のためのHP作成、パンフレット作成等の実績(学校としての創意工夫を含む)及び今後の予定 リーフレット及び研究紀要を作成し、公表会で参観者に配布</p> <p>フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績又は予定 公表会で研究成果を参観者に発表</p>

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下 7～9学級 13～15学級	4～6学級 10～12学級 16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T・Tによる指導		
【研究教科】	国語 外国語 保健体育	社会 音楽 その他	数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	